

令和3年度 研究外部評価（事後評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
21-C2	放射イミュニティ試験の性能向上に関する研究	11.6	A
研究期間	令和元年度～令和2年度（2カ年）		
研究概要	放射イミュニティ試験において高い周波数帯や高電界強度での評価が必要となってきたため、既存設備の見直しとレンズアンテナの設計・試作により電界照射範囲を制御し、試験性能の向上を図った。		
外部評価委員のコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・既存設備を活用して、市場ニーズに対応するテーマ設定が評価されます。また、目標の数字を概ね達成できている点も評価されます。但し、レンズ位置出しや試験設備としての安定性や使いやすさなど懸念されるため、導入に際してはもう一段の検討の実施が望ましいです。 ・今後 DX に取り組む企業が増えてきますが、5Gの導入など指向性の高い周波数帯の対応が課題です。ニーズが高まる事が予測されますので早期の実用化を期待します。 ・今回の手法の定式化を進め、異なる要求に対する対処がシステムチックに行えるように整備することを期待します。 ・同様の課題は全国の施設が抱えていると思われませんが、横展開を考えてはどうか。NICTのEMC部門との連携も検討してはどうか。 ・既存設備に金属板レンズを活用して、新たに求められている試験が出来るようになり、目的を達成できたと思います。県内企業に告知し活用を促進して下さい。 ・イミュニティ試験器具は個々の企業で準備する事は非現実的のため工業試験場らしい研究と思います。是非、安定動作できるように発展させて下さい。 ・高電界中の放射イミュニティ試験に向けた検討として有効だと考えます。今後の電波環境の多様化、複雑化に対し、試験方法の確立は必須であるとともに技術的発展が必要です。ご研究の内容として達成度は高いものと思いますが、産業への寄与については今後のご検討、発展が期待されます。 ・車や医療関連のお客様から高い電界強度を要求されたこともあり、今回の28～56V/mの対応は製品の信頼性向上に大きく役立ちます。ありがとうございます。 ・耐性強化がより求められるようになった電子機器の信頼性向上を目的とした本研究により、従来より高い電界強度での試験が行えるようになったことは評価できます。今後、多くの企業に利用されることを期待したいです。 ・設定目標に対して着実に目標を達成しており評価できます。今後さらにデータを収集して、最適化を図って欲しいです。 ・高い電界強度での評価が可能になり、開発する製品の開発スピードの向上が期待できます。繰り返し精度が知りたいです。 			